

わたしはあなたを異邦人に遣わす

2023年5月7日

使徒の働き 22章1～29節

序：エルサレムでの逮捕が最終的にはパウロのローマ行きの発端

- 弁明の機会
- ①ユダヤ人の群衆
 - ②ユダヤ議会
 - ③ローマ総督フェリクス
 - ④" フェストウス
 - ⑤ユダヤ王アグリッパ

その後、護衛つきでローマへ

I. パウロの証し

狂乱、殺意、暴動寸前のパウロの勇敢さ、意外な申し出を認めた千人隊長
民衆を鎮静（ヘブル語で語る）

(1)素姓

キリキアのタルソ生まれのユダヤ人
エルサレムで育つ（ガマリエル門下の教育）
律法と神に対する熱心（皆さんと同じ）
キリスト信者への迫害の急先鋒（大祭司、長老全体の支持、推薦）

(2)回心

- ①ダマスコ途上 真昼 天からのまばゆい光
イエスが語りかけ、サウロが答える
「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」
「主よ、あなたはどなたですか」
「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」
信者を迫害 = イエスを迫害

（ほかの人たちは光は見たが、話の内容は不明）

「どうしたらよいか」
「ダマスコに入れ。そうすればわかる」

（手をひかれて、ダマスコ入り）視力を失った

②アナニアの派遣

律法に従う敬虔なダマスコ地元のユダヤ人キリスト者
パウロへの助け
目が見えるようになった
神の選び
みこころを行うため
義なる方を見るため
御声を聞くようになるため
キリストの証人となる（自分が見たこと、聞いたことを証言する）
バプテスマを受けよ

(3)エルサレムの宮での体験

宮での祈り 夢心地
主との問答
「急いでエルサレムを離れよ。人々はあなたの証しを受け入れない」

「私が信者を迫害していたこと、ステパノの殉教の死にも積極的に
加担しました。（それを知っているユダヤ人たちなので、分かって
くれるでしょう。今、エルサレムを離れるほどではないのでは？」

「行きなさい。わたしはあなたを遠く異邦人に遣わす」＝明確な召命

II. 弁明の結果

- (1)ユダヤ人の会衆の敵意・憎悪・殺意再燃、爆発 ⇒ 再び危険な状況
ことばと行動、
- (2)千人隊長は十分にこの事件の原因を把握できなかったので、鞭打って取り調べようとした

III. ローマ市民権

- (1)この鞭打ちは刑罰ではなく、自白を促すもの（過酷：死に至ることあり）
- (2)パウロは百人隊長に告げる
自分はローマ市民である（偽証すれば厳罰）
罪に問われたら裁判を要求できる
今、鞭打つのは違法、あなたがたが執行すれば地位を失う
ローマ市民として適切な扱いを要請：法を尊び守る
自分のいのちを犬死にで無くさない
- (3)百人隊長が千人隊長に伝え、対応を求める
- (4)千人隊長がパウロに確認
千人隊長は大金を払って、ローマ市民権を買った
パウロは生まれながらの市民
先祖がローマ帝国に功績を認められ、以降代々市民となった
- (5)ローマ軍関係者（百人隊長、千人隊長）に恐れが生じ、取り調べを中止

IV. 結び

- (1)パウロの回心の証しは使徒行傳の中で3回出てくる
9章 (by ルカ) 22章、26章 (by パウロ)
いつでも、どこでも、自分の救いの証しをする備えをしておく
口下手だと思うなら、救いのあかしを文書にしておく、手渡せる
- (2)荒れ狂う会衆を前にして、それでも話をしようとしたパウロの勇気と誠意は
異邦人の支配者を動かした LOVE ALWAYS FINDS THE WAY.
人間的には不可能、困難と思えることであっても、みこころならば、主が道を
開いてくださる
- (3)神の賜物と召命は変わることがない
生粋のユダヤ人のエリート、律法と儀式に精通した、迫害に人一倍熱心だった
パウロの回心、世界大に発展する福音宣教の働きは主の再臨まで続く
- (4)主がパウロに生まれながらに与えておられたローマ市民権
自分のいのちを救うために振りかざした訳ではなかったが、異邦人に法を
守らせることを通して、活用された
- (5)時が満ちなければ、一人ひとりの終わりは来ない
イエスも何度も殺されそうになった、パウロも同じ
神の時が満ちるとき、神の方法で、ご計画が完うされる
人間は神の邪魔はできない だから、祈れ 恐れることはない